



～ 夢ひとすじに ～

宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 2 8 年 度 第 3 号
平成 2 8 年 6 月 1 日 (水) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

『「6月はいじめ撲滅強化月間」、笑顔あふれる学校に!』

校長 小林 広利

4月14日、16日と、熊本県熊本地方を震央とする震度7を観測する大地震が発生し、多くの方が犠牲となりました。その後も数多くの余震が続いています。犠牲となった方のご冥福をお祈りするとともに、避難生活を余儀なくされている多くの方々への支援と応援を続けていきたいと感じています。

私たちは、平成23年3月にも、大地震と大津波で多くの尊い命を失った東日本大震災を経験しています。その大震災から1ヵ月後、津波に流された岩手県陸前高田市の自宅跡で涙を流しながらトランペットを奏でている少女がいました。岩手県立大船渡高校3年の佐々木瑠璃(ルリ)さん(当時17歳)は、震災から70日たった4月20日に、津波の犠牲になった母らを思いながら、ZARDの「負けないで」を、大勢の観客が聴く東京のコンサートホールで披露したそうである。

また、某新聞には、「くよくよせずに、お母さんの分まで」と題して、石巻市立北上中学校1年生の大槻晃弘(アキラ)さん(当時12歳)の作文が載っていた。

「津波の時、お母さんと2人で家にいました。突然、津波が襲ってきて窓の外に飛ばされました。車の上に乗ったり、木の板にしがみついたりしているうちに気を失い、2時間半後、家から約1キロ離れた地面で目を覚ましました。お母さんは1ヵ月後に遺体で見つかりました。『家の裏山に逃げよう』と言っていれば良かったなと思います。避難所では小学生とサッカーをして遊んでいます。中学生になったし、くよくよせずに、お母さんの分まで頑張るって生きようと思います。」

もし、時間が戻せるのなら、大地震の前に時間を戻し、安全な場所に家族とともに避難してほしい。亡くなった父や母、息子や娘など多くの方々【「負けないで」を演奏した佐々木瑠璃さん】が戻ってきてほしい。誰もがそのように願うだろう。しかし今は、大変つらい現実だが、前向きに生きてほしいと応援するしかない。被災された方々とまったく同じ気持ちにはなれないのだが、被災された方々とともに笑顔のもどる日本にしていきたい。そう思っているのは、誰もが同じだと思う。

宮原中学校の皆さんには、改めて命の重さや尊さを考え、今、自分ができることを精一杯やれる生徒であってほしいと願っています。

現在の宮原中学校では、多くの皆さんの活躍が見られます。体育祭では、鈴木涼太くん、中島伶菜さんの立派な選手宣誓や高松雅央くんを先頭とした全校生徒による力強い入場、そして一人ひとりが全力で取り組んだ競技に感動しました。3年生の修学旅行では、気温30度を超える暑さの中、班で協力しながら京都・奈良を巡り、ホテルの方々や班別行動に同伴下さったシルバーガイドさんなどに、心を込めて大きな声であいさつができる3年生の姿が立派に思えました。宿の各部屋では、スリッパがしっかりとそろえられていました。スリッパがそろっているのは、皆さんの心がそろっているからだと思います。修学旅行実行委員長 水嶋萌さんをはじめ実行委員の皆さん、ありがとうございました。宮原中の皆さんは、これからも自分に自信と誇りをもち、そして、日々の生活では、今、自分ができること、今、自分がやらなければならないことをしっかりと行える人になってほしいと思います。逆に、自分が嫌だと思ふことや友達が嫌がることを他の人に言ったり行ったりするのは絶対にやめましょう。それはいじめです。残念ながら全国には、いじめが原因で命を落とした中学生もいます。命は、決して取り返すことのできないたった一つの大切なものだということを皆で肝に銘じ、明るい学校、笑顔あふれる学校、いじめや差別の無い安心できる学校をこれからも目指し、皆で創り上げようではありませんか!

